

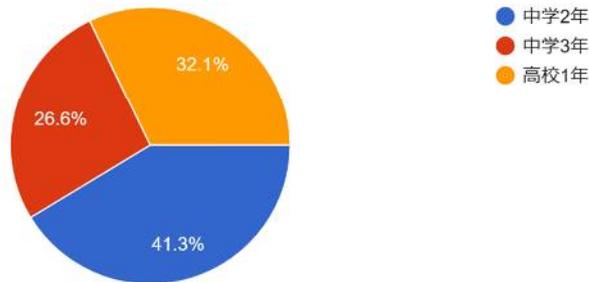
## 2024 年度「海洋人間学」学校関係者評価

### 2024 年度海洋教育アンケート結果（保護者）

#### 1. 学年別割合

- ・回答者のバランスはよかったが、例年に比べて回答者数がやや少なかった。現中2の回答者数が多いのは初年度ということが大きいと思われる。

ご子の学年  
109 件の回答



#### 2. 居住地別割合

ご自宅の地域  
109 件の回答

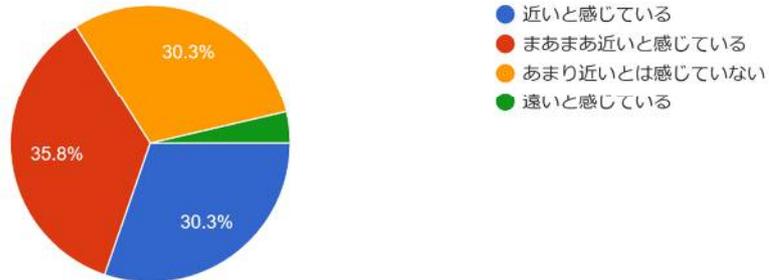


#### 3. 海との距離感

- ・アンケート2の結果から県東部（横浜・川崎等）居住者が多く、東京湾、相模湾とも距離が近く、東京湾、相模湾に近いこともあって7割の方が海を身近に感じていることがわかる。この傾向は例年に同じ。

ご自宅は海に近いと感じていらっしゃいますか。

109 件の回答

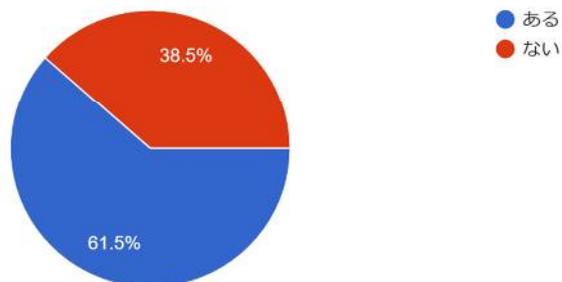


#### 4. ヨット実習の見学

- ・回答者中 6 割がヨットや遠泳を見学したことがあり、ヨット実習への注目度が高いことがわかる。この項例年よりも 1 割ほど数字が低い。

これまでに学校のOPヨット実習を見学されたことはありますか。

109 件の回答

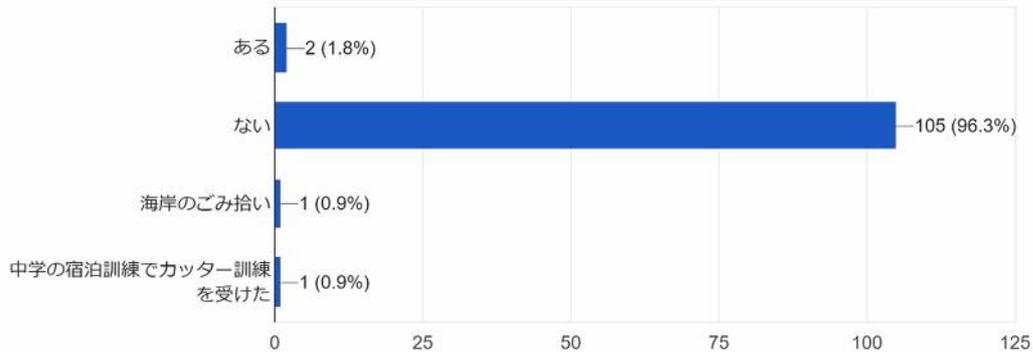


#### 6. 保護者自身の海洋教育の経験

- ・9 割の方が自身では海洋教育の経験がないことが表れている。世代の問題もあるが海洋教育に取り組んでいる、あるいは触れる機会が少ないことを示している。この項例年に同じ。

ご自身が学校で海洋教育を受けられたご経験はございますか。

109件の回答



7. 本校の海洋教育が、ご子息にどのような成長をもたらすとお考えですか。

・例年と同様、大別して次の4つのことについて回答されている方が多く見られました。

①自然との付き合い方について成長を促す。

<キーワード> 環境保護、環境問題、自然に対する畏敬の念、海との共生、海の豊かさと怖さ、命の大切さ など

②自立や協働を促す。

<キーワード> 秩序やチームワーク、自分との戦い、決断力（その場で考える力）、コミュニケーション など

③心身の成長を促す。

<キーワード> チャレンジ精神、危険予知、柔軟な思考力、健康、バーチャルでない世界を体感する、大らかな気持ち など

④視野を広げることができるようになる。

<キーワード> 海に関する知識、ものの見方、将来の進路の選択肢が広がる、想像力、創造力 など

以下、回答を何点か抜粋しました。

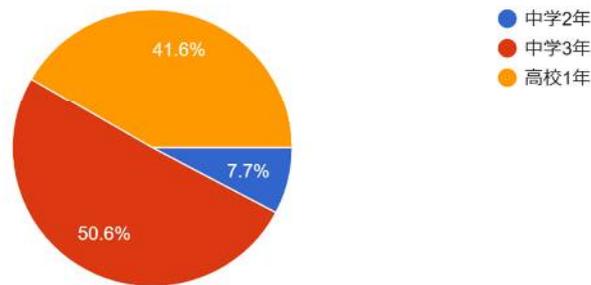
- ① 海洋生物に関する知識が得られると共に、海の環境問題について考えるきっかけにもなっていると思っています。余談ですが、息子は鉄腕 DASH が大好きで、そこで取り上げられてる海シリーズは録画して何回も見ています。逗子開成に入学して、更に興味を持ったように感じています。
- ② 中高六年間、海を当たり前近くに感じ親しみながら過ごすことで、海や自然に関心を持ち、それを大切にする意識を身につけた大人に成長してくれると思います。
- ③ 遠泳では粘り強さを、ヨット実習やヨット部では天候や波、風を読んで機転を利かす第六感のようなものを期待していました。自宅での姿とは違い、ヨット実習のときはせっせとみんなのために働いていたので感心しました
- ④ 災害時対応、体力、環境保護への関心
- ⑤ 環境保護への関心、探究心や好奇心への刺激、科学的知識の獲得、チームワークの重要性、心身の健康維持、など多様な視点を持つ豊かな人間に成長してくれると考えます。
- ⑥ 昨年中 1 のヨット実習を見学し、生まれて初めて一人で風をよみヨットを操る姿に早くも息子の成長を感じました。今後もヨット実習や遠泳を通して、大自然を相手に自力で試行錯誤しながら頑張ること、仲間と協力し励まし合って努力する大切さや、困難を乗り越えて得られる達成感をたくさん経験し、基礎体力と諦めない精神力を培って欲しいと思います。また、海について学ぶことで地球環境や世界にも目を向け、人と自然との関わり方とその影響についての知見を深め、自分→社会→世界→未来へと視野を広げていってくれればと期待しています。先生方には他校にはない貴重な学びの場と機会をご用意下さりありがとうございます。
- ⑦ 自然の中にいると思いつ通りにいかない事も多く、そんな状況からいかに自分の目標に近づけるか等考え動く力が身につくと思います。

## 2024年海洋アンケート（生徒）

### 1. 学年別回答内訳

- ・回答者が高1、中3に偏ってしまいバランスの悪いデータになってしまった。

学年  
413件の回答

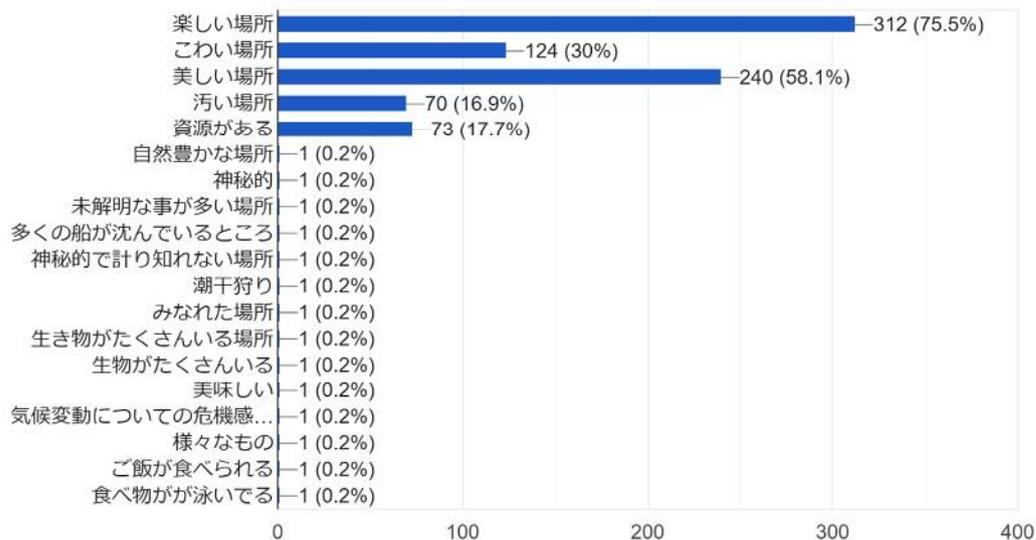


### 2. 海に対するイメージ

- ・「楽しい」、「美しい」といった肯定的な印象を持っている生徒が大半を占めている。他方「怖い」というイメージを持つ生徒も3割ほど存在している。

※ この傾向の割合は例年通り

幼い頃からの今まで「海」という場所にどんなイメージを持っていますか。（複数回答可）  
413件の回答

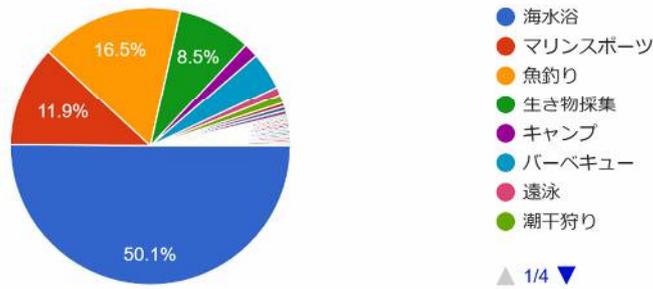


### 3. 海についての思い出

- ・例年と同じく海水浴が回答の半数を占めており、令和時代にあっても最も一般的な海のアクティビティだといえる。

学校外で、最も印象の残る海に関する思い出を1つあげてください。

413件の回答

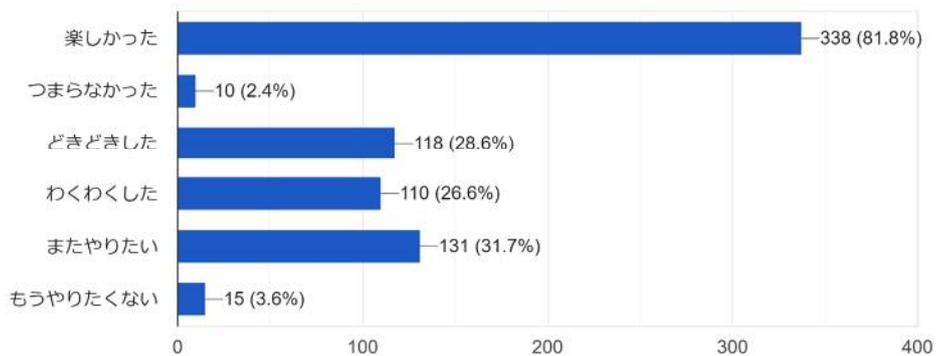


### 4. ヨット実習の感想

- ・肯定的な感想が8割を占めている。「どきどき」や「わくわく」といった未知の体験をしたときの感情とともに、「またやりたい」という感想も3割ほどの生徒が抱いており、一定の成功を収めていると言える。今後に向けて「もうやりたくない」、「つまらなかった」等のネガティブな要素の原因を分析する必要がある。

(中2, 中3, 高1) OPヨット実習の感想を次の中から選んでください。(複数回答可)

413件の回答

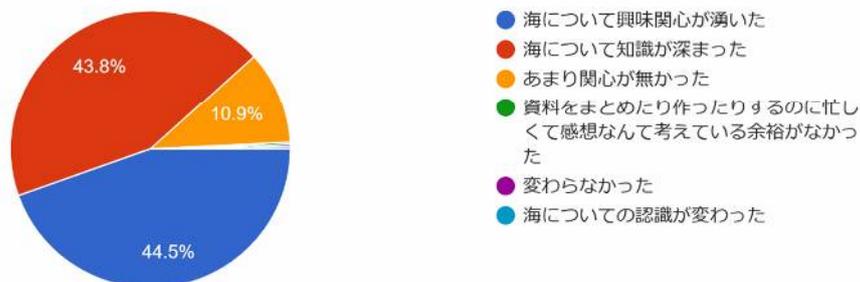


## 5. 海洋に関する学習の感想

- ・約9割の生徒で海洋に関する興味、関心が向上した。

(中3, 高1) 海洋に関する学習の感想を次の中から1つ選んでください。

384件の回答

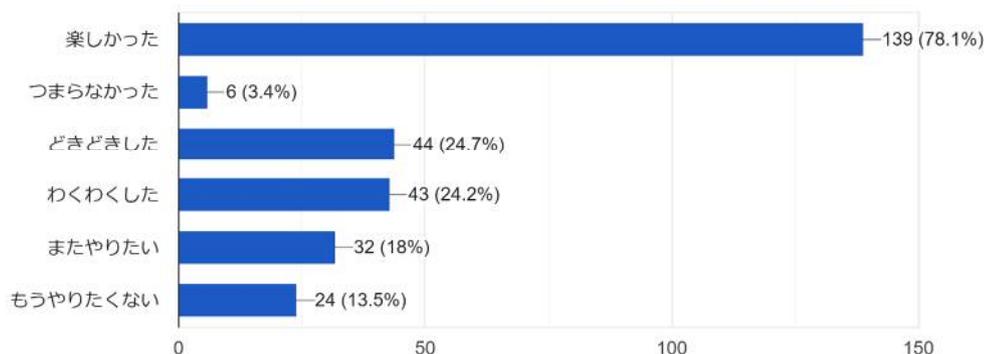


## 6. 遠泳についての感想

- ・約8割の生徒が肯定的な感想を持っており、「どきどきした」という感想に表されているように冒険心も刺激された行事であったことがわかる。この項目についても「もうやりたくない」、「つまらなかった」等のネガティブな要素の原因を分析する必要がある。

(高1のみ) 遠泳実習の感想を次の中から選んでください。(複数回答可)

178件の回答

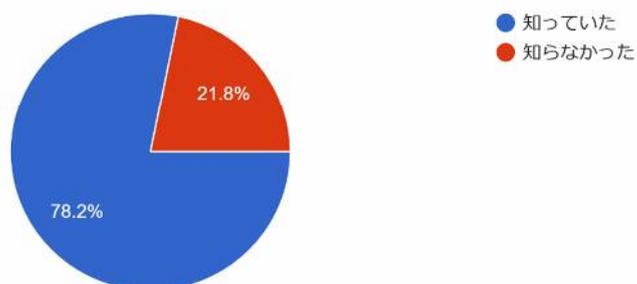


## 7. 海洋教育に対する入学以前の関心

- ・ 8 割弱の生徒が入学以前より本校の海洋教育について知っていたことが表されている。

逗子開成には、海洋教育があることを中学入学前から知っていましたか。

413 件の回答

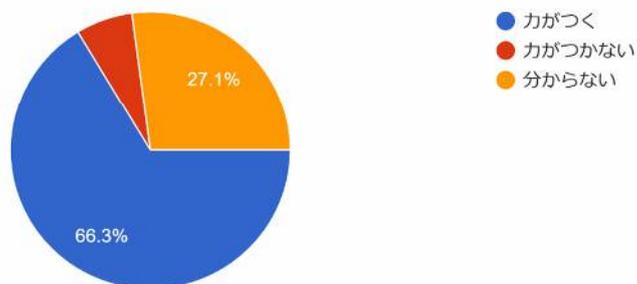


## 8. 海洋教育について学び実感

- ・ 7 割の生徒が自分にとってプラスの効果があったと感じている。

逗子開成の海についての学びから、自分には何か力がつくと思いますか。

413 件の回答



## 9. あなたにとって海はどのような存在ですか。

- ・ 「楽しい場所」、「美しい場所」といった肯定的な印象を持つ生徒が多いことと同時に「危険な場所」、「怖い場所」といった記述も見られた。本校の場合は物理的な距離も近く、海に携わる機会も多いので関心は少なくない。ポジティブな心象と「自然への畏怖」が共存する傾向が表れている。

## 逗子開成中学校の海洋人間学について

国立極地研究所 国際極域・地球環境研究推進センター 特任研究員  
丹羽淑博

逗子開成中学校の海洋人間学は、当校の伝統である逗子海岸での「ヨット制作・帆走実習」や「遠泳実習」に加えて、2021年度から導入された「海洋人間学×総合学習」によって構成されています。「ヨット実習」と「遠泳実習」を通じて、仲間たちと海を体感し、自助・共助に基づくシーマンシップの精神と海への畏敬の念を育むとともに、それらを基盤にした「海洋人間学×総合学習」では、海への理解・関心を深め、情報を収集・整理・分析する力、自己の意見を発表する力、他者の意見を尊重する姿勢を育成することを目的としています。シーマンシップを育む体験をベースに「海洋教育」と「探究活動」の要素を結びつけた、全国唯一と言える非常にユニークな取り組みと言えます。

私は2021年に東京大学大学院教育学研究科海洋教育センターのスタッフ（当時）として、「海洋人間学×総合学習」の導入にあたり、中学1年の「海に関する土曜講座を企画する」のプログラム作りに関わる機会を得ました。プログラム開始当初は、生徒たちが提案する企画は、海洋科学に関連するものが大部分を占め、一般的な海洋学のイメージの枠にとらわれてテーマが狭くなりがちでした。しかしながら、昨年度、生徒が提案した企画を見ると、環境、スポーツ、アート、数理、食、工学、歴史といった様々な分野に広がり、生徒の自由な興味・関心に応じて非常に多様化しているのがわかります。また、単に知識を習得するのではなく、協力して解決方法を考えるものや、難しい数理的内容を物語の秘密を解き明かすように誘うもの、アート作品を作成するものなど、海洋問題へのアプローチの方法も多様な広がりを見せています。さらに、生徒たちの思いが込められた企画ポスターも、工夫が凝らされた非常に魅力的なものになっています。こうした生徒たちの自由な発想・興味を引き出すことができたのも、「ヨット実習」と「遠泳実習」を通じて生徒間に協力・信頼体制がきちんと築かれていること、さらに、それをサポートする各クラスの教員によって海洋人間学の目的がしっかり共有されていることが大きな要因だと思います。

海洋人間学の活動内容は毎年改善が進められており、さらなる発展が非常に楽しみです。今後は、逗子の海を舞台に地元の人々も巻き込んだ活動につなげていけると、よりよいものになると思います。また、一部の生徒たちは高校でも海に関する探究活動を続けており、各種学会でその成果を発表するとともに、生徒間のディスカッションのコーディネーターを率先して担っています。このように逗子開成で「海洋人間学」を学んだ生徒たちが、これからの全国の海洋教育のユースリーダーとしても活躍して下さることを大いに期待しています。